

第49回

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会

全国(東京)大会及び研修会

【大会テーマ】

自治体アーカイブズの現在と未来

期 日 令和5年11月30日(木)・12月1日(金)

会 場 駒澤大学記念講堂 (駒沢キャンパス)

開催方法 ハイブリッド(対面+オンライン)

主 催 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)

共 催 駒澤大学・昭和女子大学

後 援 独立行政法人国立公文書館・東京都・公益財団法人
特別区協議会・公益財団法人東京市町村自治調査会

開催要項

- 1 期日 令和5年11月30日(木)・12月1日(金)
 - 2 主催 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会(全史料協)
 - 3 共催 駒澤大学・昭和女子大学
 - 4 後援 独立行政法人国立公文書館・東京都・公益財団法人特別区協議会・公益財団法人東京市町村自治調査会
 - 5 会場 駒澤大学記念講堂
〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1 TEL03-3418-9272
- 研修会A(施設視察)
- ・東京都公文書館 東京都国分寺市泉町2-2-1 TEL042-313-8460
 - ・武蔵野ふるさと歴史館 東京都武蔵野市境5-15-5 TEL0422-53-1811
 - ・豊島区立郷土資料館 東京都豊島区西池袋2-37-4としま産業振興プラザ7階
TEL03-3980-2351
 - ・駒澤大学禅文化歴史博物館 東京都世田谷区駒沢1-23-1 TEL03-3418-9272
- 6 内容 (1)開会行事
(2)研修会(施設視察を含む)
(3)記念講演会
(4)国立公文書館報告
(5)大会テーマ研究会
(6)機関会員・協賛企業展示、ポスターセッション
(7)交流会
 - 7 申込方法 「参加申込方法」(p.9)をご覧ください、全史料協ウェブサイトのオンライン申込みフォームを利用してお申込みください。オンライン申込みができない場合は、別紙「申込書」にご記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール、FAX 又は郵送にて、お申込みください。
 - 8 その他 (1)会員相互の親睦を図るため、参加者名簿(氏名・所属[機関名又は都道府県名])を作成します。申込時に名簿掲載の可・否をご記入ください。記入がない場合は掲載しないこととします。なお名簿作成にあたっては個人情報の保護に十分配慮し、その用途を本大会に限定しますので、趣旨をご理解の上、掲載にご協力ください。
(2)手話通訳等を希望される方は、申込時に通信欄にその旨をご記入ください。

会場

○駒澤大学駒沢キャンパス記念講堂

※地図中の枠内
東急田園都市線「駒沢大学」駅から
徒歩約10分

○研修会A(施設視察)

- ①東京都公文書館
- ②武蔵野ふるさと歴史館
- ③豊島区立郷土資料館
- ④駒澤大学禅文化歴史博物館



駒澤大学HPより

大会日程

全国歴史資料保存利用機関連絡協議会第49回全国(東京)大会日程表

1日目

11月30日(木)					
10:00	【研修会A】施設視察				
10:30	<table border="1"> <tr> <td>① 東京都 公文書館 定員40名</td> <td>② 武蔵野 ふるさと歴史館 定員25名</td> <td>③ 豊島区立 郷土資料館 定員30名</td> <td>④ 駒澤大学 禅文化歴史 博物館 定員40名</td> </tr> </table>	① 東京都 公文書館 定員40名	② 武蔵野 ふるさと歴史館 定員25名	③ 豊島区立 郷土資料館 定員30名	④ 駒澤大学 禅文化歴史 博物館 定員40名
① 東京都 公文書館 定員40名	② 武蔵野 ふるさと歴史館 定員25名	③ 豊島区立 郷土資料館 定員30名	④ 駒澤大学 禅文化歴史 博物館 定員40名		
11:00					
11:30	移動・昼食・休憩 受付 展示・ポスターセッション				
13:00	大会開会行事				
13:15					
13:20	【研修会B】 ヨーロッパにおける基礎自治体の文書管理と専門職 —イタリアの地方から日本のアーカイブズの明日を探る—				
14:20	休憩				
14:30	【研修会C】 被爆者運動史料の整理・保存・活用 —戦後史料を後世に伝えるプロジェクトの取り組み—				
15:30	休憩				
15:40	【特別講演会】 料紙研究とアーカイブの関わり				
17:00	移動・休憩				
17:45	交流会 (駒澤大学深沢キャンパス内洋館)				
19:45					

2日目

12月1日(金)	
9:00	受付
9:30	【国立公文書館特別報告】 アーキビスト認証の取組について —准認証アーキビストの創設を中心に—
10:05	
10:10	大会趣旨説明
10:15	【大会テーマ研究会報告Ⅰ】 東京都の基礎自治体における文書管理 —アンケート調査から見るその実態と課題—
11:20	休憩
11:30	【大会テーマ研究会報告Ⅱ】 自治体アーカイブズのこれまでとこれから —あまがさきアーカイブズの新たな挑戦—
12:20	駒澤大学タイム(大学の紹介)
12:30	休憩・昼食 展示・ポスターセッション
13:30	【大会テーマ研究会報告Ⅲ】 公文書管理条例・歴史公文書等保存条例と 自治体アーカイブズの行方 —市町村との連携と防災への対応等—
14:20	休憩・企業展示・ポスターセッション
14:35	【大会テーマ研究会総合討論】
15:55	
16:00	閉会行事
16:15	

11月30日(木)

■研修会A

①東京都公文書館(10:00~11:00)

東京都公文書館は、令和2年(2020)4月、国分寺市泉町の新館に移転オープンしました。新館建築に際しては資料保存上の困難に直面してきた経験を踏まえて、計画段階から資料保存上の対策に留意し、ゾーニングを意識した構造、環境負荷にも配慮した十全な温湿度管理などを実現することができました。また、開館と同時に条例設置の住民利用施設となり、常設・企画展示室や研修室も完備しました。見学ではバックヤードを中心に新館の特質をご覧ください。

②武蔵野ふるさと歴史館(10:00~11:00)

武蔵野市は、平成26年(2014)に武蔵野市歴史公文書等の管理に関する条例を施行し、旧西部図書館を活用して市立武蔵野ふるさと歴史館を設置しました。公文書館・博物館・文化財保護普及の3機能を持つ複合施設として年4回の企画展をはじめ様々な教育普及事業を展開し、市史編さん事業も所管しています。

本研修では当市の文書管理および公文書館機能についての概説、収蔵庫見学、企画展「鈴木育男写真展2」の見学を実施します。

③豊島区立郷土資料館(10:00~11:00)

昭和59年(1984)に開館し、平成29年(2017)に展示リニューアルした地域博物館です。当館は、池袋駅近くの複合施設7階に位置し、区外に収蔵庫を有するなど、都心部ならではの施設面の課題を抱えています。常設展示では考古資料、文書、生活資料、写真、ジオラマなどで区の歴史をわかりやすく紹介しています。

また年3、4回、郷土資料、美術、文学・マンガの3分野が連携した収蔵資料展や企画展、講座などを開催するとともに、分館(文化財建造物)や区内の博物館と連携した事業を行っています。

④駒澤大学禅文化歴史博物館(10:30~11:30)

当館は、開校120周年記念事業の一環として、平成14年(2002)に開館致しました。昭和3年(1928)に「図書館」として建てられた東京都選定歴史的建造物「耕雲館」を保存・活用しています。

展示室は常設展示室・企画展示室・大学史展示室の3つのエリアに分かれ、本学の特色を活かした展示を発信しています。

また、学芸員資格取得のための実習室なども備え、受講生による展示の実習を行う場としても活用されています。

■大会開会式(13:00~13:20)

■研修会B(13:30~14:20)

B「ヨーロッパにおける基礎自治体の文書管理と専門職

ーイタリアの地方から日本のアーカイブズの明日を探るー

湯上 良氏(昭和女子大学)

日本では、アーカイブズ関連の諸法律が制定され、専門職資格や養成制度も本格化しています。また、各地で文書館の設立や国立公文書館新館の建設も進んでいます。一方で、アーカイブズやアーキビストのあり方は、従来通りでよいのでしょうか?地方は地方、国は国で、独自にアーカイブズを保存・活用すべきでしょうか?

本報告では、国と地方が役割を分担し、「トータルに」保存・保護・活用するイタリアの事例を通じ、日本のアーカイブズの明日を探ります。

「制度が充実しているイタリアと比べようがないのでは?」という疑問もあるでしょう。イタリアでも自治体の予算は潤沢ではなく、できることから、大胆に広い視野で取り組む姿をお伝えします。

<休憩 14:20~14:30>

■研修会 C (14:30~15:30)

C 「被爆者運動史料の整理・保存・活用

—戦後史史料を後世に伝えるプロジェクトの取り組み—

印出 也美氏(昭和女子大大学院)

吉村 知華氏(同 OB、本庄第一高等学校教諭)

戦後史史料を後世に伝えるプロジェクト(以下、戦後史 PJ)は、ノーモア・ヒバクシャ記憶遺産を継承する会が所有する被団協関連文書を活用して、被爆者の戦後の歩みを明らかにすることを目指しています。

昭和女子大学の100名以上の学生ボランティアは、平成24年(2012)から被団協関連文書整理に協力してきましたが、その発展的活動として戦後史 PJ が平成30年(2018)に立ち上げられ、被団協関連文書の研究に取り組み、活動の成果を学術展示や口頭報告の形式で発表してきました。

本報告では、戦後史 PJ の活動紹介を通じて、組織アーカイブの整理・保存・活用の実例を示すことに努めたいと思います。

<休憩 15:30~15:40>

■特別講演会 (15:40~17:00)

料紙研究とアーカイブの関わり

増田 勝彦氏(元昭和女子大学大学院教授)

昭和55年(1980)から始めた、「製紙に関する古代技術の研究」で、当時の伝統的方法では再現できなかった古典籍や絵巻物の料紙再現は、修復材料を得るのが主でしたが、副次的には修復担当者だけでなく、絵画や文書を担当する人たちにも、肉眼観察によるだけでは、文書料紙の判定が不確実であることが徐々に知られるようになったことが大きな成果だったと思っています。

1980年代には、酸性紙問題が社会的関心事になり、紙に対する関心は和紙に書かれた史料だけでなく、明治以降の工業製紙の文書を含めた用紙に対しても注がれ、新しい保存と修復に関する技術の発展を待つようになっています。

■ 交流会 ■

交流会会場は、「駒澤大学深沢キャンパス内洋館」です。各自で御移動をお願いいたします。

会場：駒澤大学深沢キャンパス内洋館
(東京都世田谷区深沢 6-8-18)
※地図中の枠内
電話：0263-72-2020
大会会場より徒歩8分
時間：17:45~19:45
会費：5,000円(大会申込時に振込)



12月1日(金)

■報告 (9:30~10:05)

「アーキビスト認証の取組についてー准認証アーキビストの創設を中心にー」

中野 佳氏(独立行政法人国立公文書館)

独立行政法人国立公文書館では、アーキビストとしての専門性を有すると認められる者を当館長が認証するアーキビスト認証を、令和2年度より開始しました。そして現在、当館では、アーキビスト認証の取組を推進するため、准認証アーキビストの創設に向け準備を進めています。こうした仕組みを定着させ、その普及・展開を図っていくためには、公文書館のみならず、より多くのアーカイブズ機関や公文書作成機関、さらに個々のアーキビストなど関係者の理解を得ることは不可欠と考えます。

本報告では、アーキビスト認証の基本的な仕組を説明した上で、准認証アーキビストについて検討経緯と第1回認定(令和6年4月1日予定)に向けた準備状況を報告します。

■大会テーマ

【自治体アーカイブズの現在と未来】

■大会趣旨説明 (10:10~10:15)

長谷川 伸氏(大会・研修委員会副委員長)

令和5(2023)年の第49回全史料協全国大会は、10年振りに東京都で開催します。今回の東京大会は、昭和女子大学と駒澤大学との共催により、駒澤大学を会場として開催できることになりました。

そして今年は4年振りに、皆様と会場で一堂に会する対面による大会が復活します。その一方、遠隔地や諸事情で会場に足を運ぶことができない方のために、オンライン併用のハイブリッド方式で開催いたします。

前回の東京大会時は、平成23年(2011)に施行された公文書管理法への対応が話題となりました。その後の10年間に各地で公文書管理条例が制定され、自治体公文書館の開館が活発となり、認証アーキビスト制度が始動するなど、アーカイブズを取り巻く環境は大きく変わりつつあります。

全史料協では、このアーカイブズの潮流を踏まえ、令和元年(2019)の安曇野大会では市町村文書館=基礎自治体アーカイブズの役割、一昨年の高知大会では、新規開館した県立公文書館の意欲的な取り組みや特徴ある公文書管理条例を紹介し、さらに昨年の滋賀大会では認証アーキビストを軸に、専門職問題を組み込んだ大会テーマ研究会・特別研修会を行いました。

今回の東京大会は自治体の共催ではありませんが、アーキビストや歴史資料の保存活用に携わる新たな担い手の育成に尽力する大学と共催することで、自由で多様な角度から、自治体アーカイブズの現状と課題を見つめ、さらにこれからのアーカイブズの在り方を考える大会にしたいと考えます。

とりわけ、都道府県(公)文書館機能施設の設置率が8割を越えた現在、今後は市区町村文書館をはじめとする基礎自治体のアーカイブズの拡充が望まれます。今大会では首都東京都下からの発信として、全国的な視点から市区町村におけるアーカイブズの問題にアプローチしたいと思います。

報告①「東京都の基礎自治体における文書管理～アンケート調査から見るその実態と課題～」は、本大会における問題提起の意味を持ちます。東京都公文書館が公益財団法人特別区協議会と共催で開催してきた「文書管理セミナー」の活動成果として、東京都下市区町村における公文書管理の実態アンケートを分析し、公文書館や公文書館機能を有する施設がない中での非現用文書の扱いの困難さなど、多くの自治体が直面している課題を明確化します。

報告の中では、近年公文書管理条例を制定した世田谷区と、公文書の電子化にいち早く取り組んだ江東区より事例報告をいただき、困難な現状から1歩を踏み出す契機と方向性を考えていきたいと思いをします。

報告②「**基礎自治体アーカイブズのこれまでとこれから～あまがさきアーカイブズの新たな挑戦～**」では、「**尼崎市立地域研究史料館**」が、新規施設移転により令和2年(2020)「**尼崎市立歴史博物館あまがさきアーカイブズ**」となり、令和4年(2022)には公文書管理条例も制定・施行された尼崎市の事例をご報告いただきます。

アーカイブズ界のトップランナーとして昭和50年(1975)より様々な先進的な活動を展開してきた同館のこれまでの総括するとともに、公文書管理条例・博物館施設下における新たな活動、そしてこれからの基礎自治体アーカイブズの在り方について議論します。

報告③「**公文書管理条例・歴史公文書等保存条例と自治体アーカイブズの行方～市町村との連携と防災への対応等～**」は、日本で唯一、民間所在史料を含む古文書等の歴史資料の保存について、歴史公文書の範囲内に含めて位置付けた鳥取県の条例がその後どのように運用されているのか、また、防災を含めて資料保存の「**市町村支援**」に積極的に取り組んでいる鳥取県立公文書館の事例についてご報告いただき、これからの都道府県と基礎自治体のアーカイブズの役割分担や協力の在り方について展望します。

なお、大会第1日目の研修会は、新館移転した東京都公文書館など、都下の特色あるアーカイブズ・歴史資料保存機関の現地見学、及び共催者昭和女子大学より、グローバルな視点から日本とヨーロッパの基礎自治体のアーカイブズを比較する入門編、大学院生が取り組んできた戦争・戦後史資料の保存・活用活動を紹介する報告で構成し、アーカイブズの多様な現在地を体感する大会としたいと思います。

久しぶりに対面で開催される大会となりますので、これまで以上に活発な討議と交流の場となりますとともに、新しい時代の潮流に乗り、これからのアーカイブズ活動の指針を提示する大会となることを目指します。

■大会テーマ研究会Ⅰ（10:15～11:20）

「**東京都の基礎自治体における文書管理
～アンケート調査から見るその実態と課題～**」

西木 浩一氏(東京都公文書館)

東京都公文書館は、平成22年(2010)以来、特別区協議会との共催により都内区市町村の文書担当者を対象とした公文書管理セミナーを開催してきました。アーカイブズが現用文書担当者に対して情報交換の場を継続的に提供するユニークな試みといえるでしょう。今年度の同セミナーでは都内区市町村対象に文書管理の実態に関するアンケートを実施しました。本報告はその結果をもとに、大方の自治体が公文書館機能を有していない状況下での文書管理の課題を明確にしようとするものです。報告の中に、いち早く文書の電子化に取り組んできた江東区、直近で公文書管理条例を施行した世田谷区からの事例報告を組み込み、現状から一歩を踏み出す契機と方向性について議論したいと考えます。

<休憩 11:20～11:25>

■大会テーマ研究会Ⅱ（11:25～12:15）

「**自治体アーカイブズのこれまでとこれから
～あまがさきアーカイブズの新たな挑戦～**」

河野 未央氏(尼崎市立歴史博物館・あまがさきアーカイブズ)

尼崎市の文書館施設・旧尼崎市立地域研究史料館は、令和2年(2020)、博物館機能と埋蔵文化センター

機能を併せ持つ旧尼崎市立文化財収蔵庫と組織統合した結果、尼崎市立歴史博物館“あまがさきアーカイブズ”として新たなスタートを切りました。また、尼崎市は令和4年に「尼崎市公文書の管理等に関する条例」を施行、公文書の保存公開体制の法的整備を行いました。現在、“あまがさきアーカイブズ”は MLA 連携をはじめ、新型コロナウイルス感染症「記録と検証」プロジェクト遂行、民間由来の近現代文書類・史料の「活用」に向けた大学との連携事業などに取り組んでいます。こうした事業内容を具体的に紹介するとともに、現在抱えている課題についてもご報告いたします。

■ 駒澤大学タイム（12:15～12:25）

大会会場を御提供いただいた駒澤大学の PR 動画を放映します。

<休憩 12:25～13:30>

■ 大会テーマ研究会Ⅲ（13:30～14:20）

「公文書管理条例・歴史公文書等保存条例と自治体アーカイブズの行方
～市町村との連携と防災への対応等～」

田中 健一氏（元鳥取県立公文書館長）

鳥取県では、「公文書管理条例」により、公文書の作成から整理、保存、廃棄（公文書館長へ協議）までの基本的事項を定め、その後、「歴史公文書等保存条例」で県・市町村・県民等の歴史公文書等保存利用の責務・役割や災害時等の適切な措置等を定め、相互の連携と協力により、県民共有の知的資源である歴史公文書等を将来へ引き継ぐこととしています。

不適切な公文書の廃棄、災害の多発や市町村合併・世代交代による都道府県や市区町村・地域の重要な資料の滅失、デジタル化への対応など、歴史公文書等保存、利用に向けた課題が多い中で、鳥取県が市町村と連携し進めている取組についてご報告し、自治体アーカイブズの行方について考えてみたいと思います。

<休憩 14:20～14:35> 休憩中に総合討論のための質問票を受け付けます

■ 総合討論（14:35～15:55）

司会 長谷川 伸氏（大会・研修委員会委員）

新井 浩文氏（大会・研修委員会委員）

自治体アーカイブズの取組みに関する各報告と、いただいた質問・意見をふまえながら、自治体アーカイブズの現状と今後のあり方などについて討論を行います。

<休憩 15:55～16:00>

■ 閉会行事（16:00～16:15）

■ 機関会員出版物等展示・協賛企業展示・書籍販売・ポスター展示 ■

会場内におきまして、会員機関の刊行物やパンフレット、協賛企業の取扱品・図書・出版物等を展示します。また、機関会員の事業等の紹介や書籍販売、個人会員の研究をまとめたポスター掲示も行います。

ポスターセッションは、コアタイムを次の時間帯に設定しました。この時間帯にはポスターの展示者が、発表形式で説明を行うとともに、参加者と自由な意見交換ができます。

○企業展示および書籍販売時間 : 11月30日(木)11:00～12月1日(金) 15:00

○ポスターセッションのコアタイム : 11月30日(木)は12:00～ 12月1日(金)は12:30～

参加申込方法

1 大会参加について

(1) 参加区分と各参加費

参加区分	資料代	交流会参加費(参加は任意)	
会 員	1,000円	5,000円	機関会員・個人会員ともに
非 会 員	2,000円	5,000円	

※対面で参加される方は必ず「大会冊子」を購入し、会場に御持参ください。所属先から対面参加に複数名参加される場合は、その人数分の「大会冊子」を御購入いただきますようお願い申し上げます。

※1台のパソコンで複数の方がオンライン参加される場合は、パソコン1台につき1冊以上の「大会冊子」の御購入をお願いいたします。

(2) 研修会A(施設見学)について

- ・研修会Aへの参加を希望される場合は、申込の際に御希望の施設をお選びください。
- ・研修会Aは、各施設の都合上、定員が定められており、先着順となります。定員に達した場合、全史料協ウェブサイトに記載しますので、申込み前に御確認ください。

(3) 交流会

- ・交流会への参加は任意です。
- ・参加もしくは不参加については、申込時に指定してください。

2 お申込み先・お問合せ先について

(1) お申込み先・お問合せ先

- ・全史料協ウェブサイト掲載のオンライン申込フォームを利用してお申込みください。
- ・オンライン申込みが難しい場合は、別紙「申込書」に御記入のうえ、大会・研修委員会事務局までメール・FAX 又は郵送にてお申込みください。

▶ 全史料協ウェブサイト <http://jsai.jp/taikai/49/index.html>

▶ 申込みフォームリンク(該当するものから申し込みください)

◆機関会員・対面参加用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSf-N3jS-ZtKXCAP2aQmWxLq2JfAE10q-KQEpAmkwvuVCNdhtg/viewform?usp=sf_link

◆機関会員：オンライン参加用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfEubJrsRww1mFL8MoFycGGokWjTdMrkafHfQ_68NaLulCUIw/viewform?usp=sf_link

◆個人：対面参加用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSeKT9gh-0H3CgN6XdvRvH_fnq15jznYU05sCUZZfaxuRBxyiA/viewform?usp=sf_link

◆個人：オンライン参加用

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfEFjtR_v8Sdx-G6Kk-MXPI4q_07Efm43TxBv6KmeJwUXbMMQ/viewform?usp=sf_link

▶ メール/FAX/郵送送付先:

〒770-8070 徳島県徳島市八万町向寺山 徳島県立文書館
全国歴史資料保存利用機関連絡協議会 大会・研修委員会事務局
担当 嵐 大二郎(あらし だいじろう)
電話:088-668-3700 FAX: 088-668-7199
E-mail: jsai_t@bunmori.tokushima.jp

(2) 参加費のお支払いについて

- ・資料代、交流会参加費ともに下記の事務局の銀行口座への振込にてお支払い下さい。
- ・資料代と交流会参加費の出金元が異なるために振込時期に差が生じる場合、同一の方(機関)からの振込とわかるようによろしくお願いいたします。
- ・振込手数料は自己負担となります。
- ・領収書は郵送もしくは当日会場にてお渡しいたします。
- ・支払いに際しまして諸手続きが必要な場合は、申込時にその旨御記入ください。または、事務局までお問い合わせください。

阿波銀行 八万支店(店番号123)

全史料協大会研修委員会 委員長 金原祐樹(せんしりょうけいこうたいけんじゅういんかい いんけい きんば ちゆう)
口座番号 0615663

3 申込み締切 令和5年10月13日[金] (郵送の場合必着)

4 その他

- ・今大会の研修会A(施設見学)・企業展示・ポスターセッションはオンラインでは実施いたしませんので御留意ください。
- ・今大会は宿泊ホテルの手配は行いませんので、参加者各自にて御手配ください。
- ・昼食は駒澤大学校内の学生食堂が御利用いただけます。学外の飲食店を御利用いただいても結構です。
- ・「大会冊子」は参加者にのみ配布いたします。不参加の方で「大会冊子」のみ必要な方は、後日ウェブサイトに掲載いたしますので、ダウンロードして御活用ください。